

グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型) 足元の基準価額の下落と今後の見通しについて

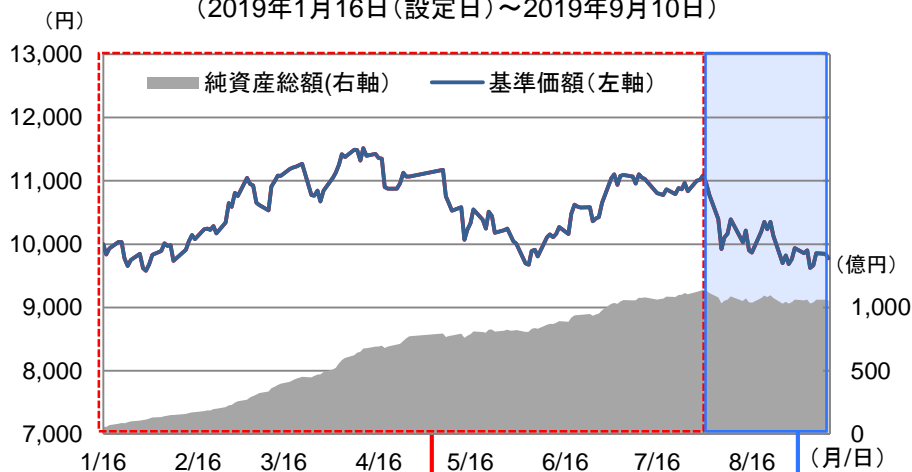
8月1日にトランプ米大統領が対中制裁関税第4弾の発動を表明したことなどから、世界景気の減速懸念が強まり、世界的に株価が下落するなか、当ファンドの基準価額も下落基調となりました。

本資料では、当ファンドのマザーファンドの運用に助言を行なうアーキ・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーキ社)からのコメントなどを参考に、足元の下落の要因や今後の見通しについて、お伝えします。

基準価額の推移と騰落率について

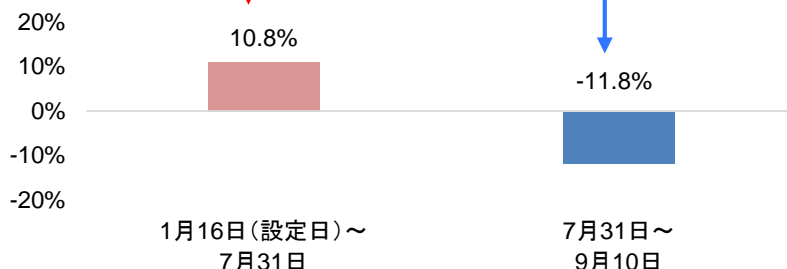
<基準価額の推移>

(2019年1月16日(設定日)～2019年9月10日)



**基準価額
9,776円**
**純資産総額
1,054億円**
2019年9月10日現在

<基準価額の騰落率>



※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

足元の下落要因について

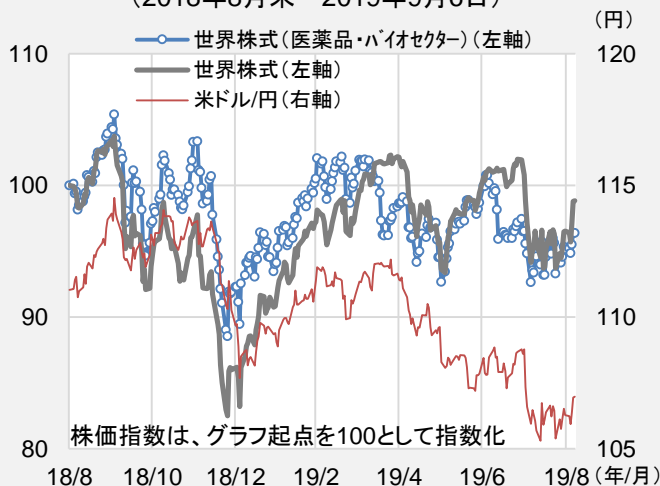
■ 報復措置の応酬など米中摩擦の激化を受け、世界的に株価が調整

- 8月1日、トランプ米大統領が、対中制裁関税第4弾を9月1日に発動する方針を表明し、さらに、税率を25%超に引き上げる可能性なども示したことなどから、世界的に株価が下落しました。
- その後、米国は第4弾の一部製品への発動を12月に先送りすると発表したものの、中国政府が米国製品などへの関税上乗せを発表、米国も対抗措置として関税の上乗せを発表しました。こうした米中の報復措置の応酬による世界景気の先行き懸念の高まりなどから、8月下旬にかけて、世界的に株価は軟調な推移となり、ゲノム関連銘柄の株価も下落しました。

■ 処方薬の薬価引き下げ法案などがバイオ医薬品関連株式の重石に

- 7月に米超党派議員による処方薬の薬価引き下げに向けた法案が、上院財政委員会で承認されました。同法案には、メディケア(高齢者・障害者向け医療保険)加入者の自己負担の軽減や高額の高額医薬品を処方する医師への払戻金制度の見直し、インフレ率に連動させた薬価の上限設定などが含まれます。この法案が議会で可決された場合の製薬会社の業績への懸念などから、7月以降、バイオ医薬品関連株式が軟調な推移となりました。
- 当ファンドの組入上位銘柄では、米中貿易摩擦の長期化を背景に、中国向けDNAシーケンシング機器の売上への懸念が高まったイルミナや、9月初旬に3億米ドルの転換社債の発行を発表したことなどから、株式価値の希薄化懸念が高まったインビテなどの株価が軟調に推移しました。
- こうしたことに加え、米景気減速懸念を受けた、7月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)での利下げによる日米金利差の縮小などから、円高・米ドル安が進行したことなども、当ファンドのパフォーマンスを下押しする要因となりました。

＜ご参考：世界株式(円ベース)と為替の推移＞
(2018年8月末～2019年9月6日)



世界株式: MSCIワールド指数(トータルリターン)*、世界株式(医薬品・バイオセクター): MSCIワールド医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス指数(トータルリターン)*

* 米ドル建ての指数を日興アセットマネジメントが円換算

※上記指数はいずれも当ファンドのベンチマークではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

今後の見通しについて

■ 来年の米大統領選挙をにらみ、中国との対話継続が期待される

- ・ 米中貿易摩擦の先行き不透明感が強まっています。米中の対立長期化は世界の株式市場の下押し要因となり、**しばらくは市場の変動率が高くなると想定されます。**
- ・ ただし、米国で来年の大統領選挙への関心が高まりつつある中、トランプ大統領は、中国との協議を合意に導き、続いて、EU(欧州連合)との貿易協議の成功に結びつけようと考えているとみられます。
- ・ このような中、**閣僚級貿易協議を10月初めに再開することで米中が合意したと発表されました。**これに先立ち、9月半ばに事務レベルでの準備協議が開かれる見込みです。米中両国が早期に包括的な合意に達する可能性は低いとみられるものの、10月の交渉再開を機に、合意に向けた協議の進展が期待されます。
- ・ このように、米中協議について、**合意に向けた米中双方の取り組みは今後も継続されると見込まれます。**
- ・ このほか、世界景気のリスク要因となっている主なもののうち、**香港政府が刑事事件の容疑者を中国本土に引き渡せるようにする「逃亡犯条例」の改正案が正式に撤回**されたことや、**英議会在がEU(欧州連合)離脱延期法案を可決**したことなどは、今後の動向に注視が必要ではあるものの、世界の株式市場の下支え要因になると期待されます。

■ ゲノム関連市場は、引き続きマーケットの拡大が期待される

- ・ インビテの転換社債発行による資金調達、債務の返済のほか、国際的な事業の拡大やインフラへの投資などに向けたものであることから、**同社の中長期的な成長に寄与すると**期待されます。
- ・ 2019年8月、米国でCAR-T細胞(キメラ抗原受容体T細胞)療法を、メディケア(高齢者・障害者向け医療保険)の給付対象にすることが決定されました。CAR-T細胞を用いる治療薬は、標準的な医薬品では効果がない白血病やリンパ腫治療の新しい選択肢と考えられています。しかし、薬価が非常に高額なことに加え、これまで全米で統一されたメディケアの指針が存在しなかったことなどが、利用拡大の妨げとなっていました。
- ・ 同療法の治療薬開発には、多くのバイオ医薬品企業などが取り組んでおり、今回のメディケアの給付対象決定を機に、さらに開発が加速する可能性があります。日本でも、2019年5月に2つの「がん遺伝子パネル検査*」の保険適用が承認されるなどの動きがみられており、**今後、ゲノム医療のマーケットが大きく拡大していくと**期待されます。
- ・ また、2019年以降、ゲノム関連企業のM&Aについては大型案件が複数成立しています。この動きは引き続き活発な状況が続くとみられ、こうした**M&Aなどによる資金流入は、ゲノム関連企業の今後の成長を加速させると**期待されます。

* がんに関わる数多くの遺伝子を、1度の検査で網羅的に解析する検査

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

アーク社からのメッセージ

■引き続き、ゲノム関連企業の長期的な成長に着目

- 一般に、ゲノム関連銘柄などのバイオテクノロジー関連企業は、中小規模の企業も多いことから、**株価の変動が大きい傾向にあります。**
- また、株式市場の調整局面においては、市場のセンチメントなどにより、高い利益成長が期待される革新的な企業であっても、大きく売られる傾向があると考えています。
- 実際に、足元の調整局面では、革新的で優れた事業を行なっているにも関わらず、売られ過ぎと考えられる銘柄が見られます。
- こうした銘柄は、**市場が落ち着いた際に反発することが期待され**、今回のような調整局面は、こうした革新的な企業へ割安に投資する機会であると考えられます。
- 当ファンドでは引き続き、**短期的な動きに一喜一憂せず、ゲノム関連企業の長期的な成長に着目した運用を行なっております。**

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク社のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の方針あるいは考え方等を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

組入上位10銘柄(2019年7月末時点)

(銘柄数:51銘柄)

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	組入比率	(ご参考) 設定来騰落率
1	イルミナ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	9.3%	-11.7%
2	インビテ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	5.3%	50.3%
3	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	4.8%	29.4%
4	エディタス・メディシン	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.3%	-6.9%
5	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.1%	-27.8%
6	インテリア・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.1%	-9.3%
7	ブリistol・マイヤーズスクイブ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.9%	-1.8%
8	テラドック・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器・サービス	3.6%	3.1%
9	ヴェラサイト	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.1%	61.1%
10	アイオバンス・バイオセラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	2.7%	124.5%

* 2019年1月16日(設定日)~2019年9月6日の株価騰落率

※2019年7月末時点の組入銘柄であり、上記の株価騰落率計算期間中、継続して保有していたことを示すものではありません。
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。

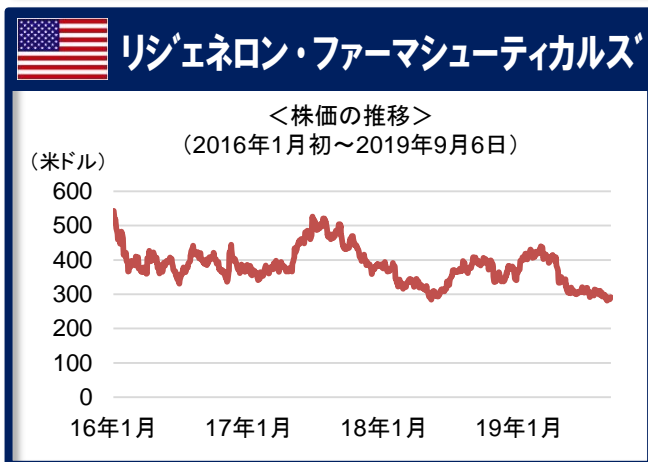
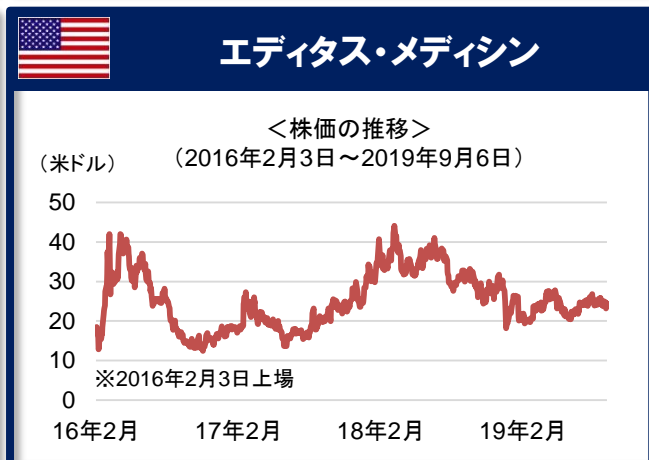
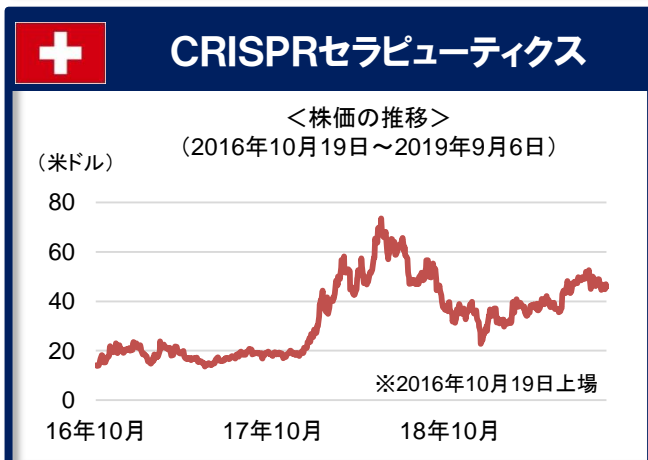
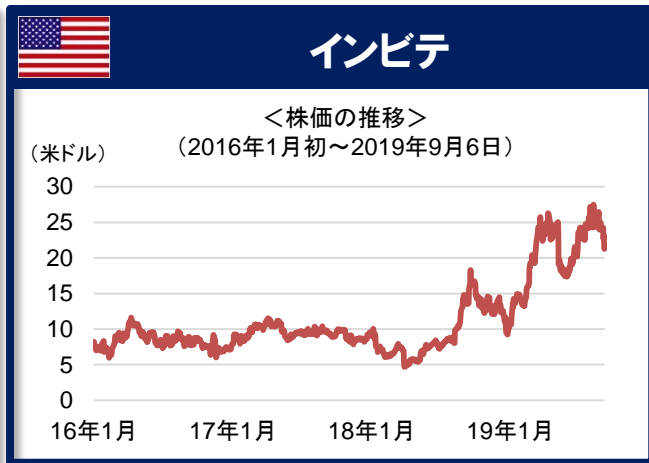
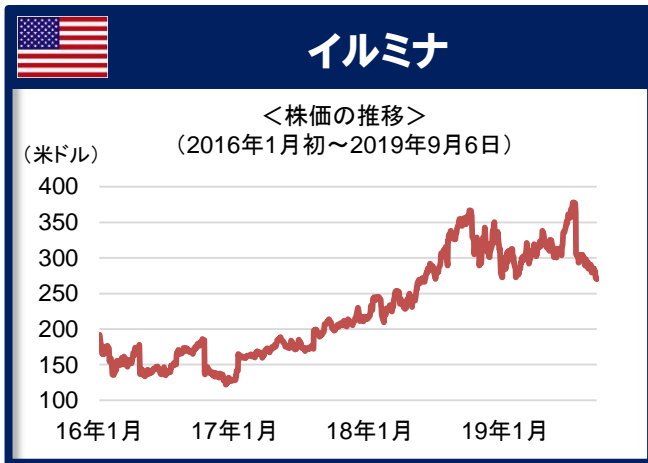
※ 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※ 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ご参考:組入上位銘柄の株価推移①

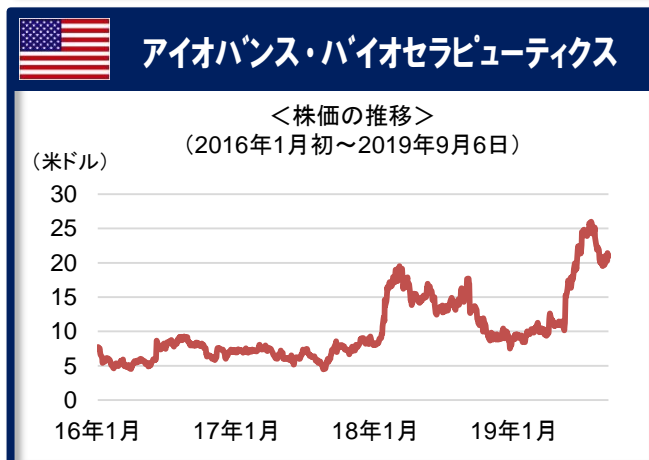
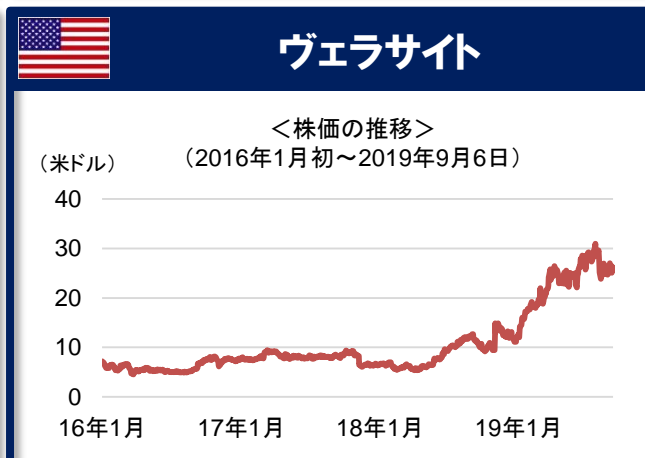
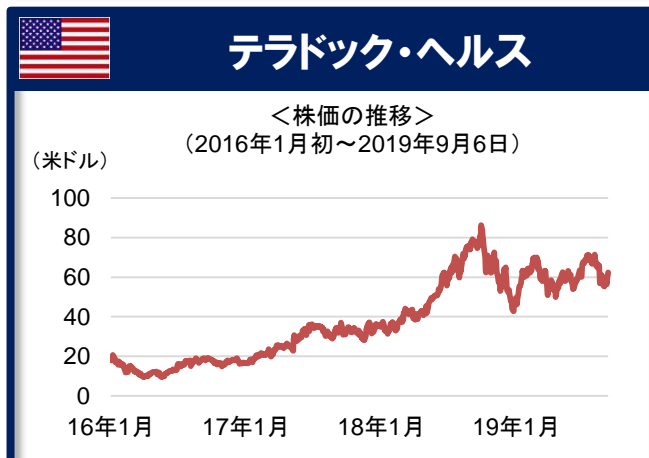
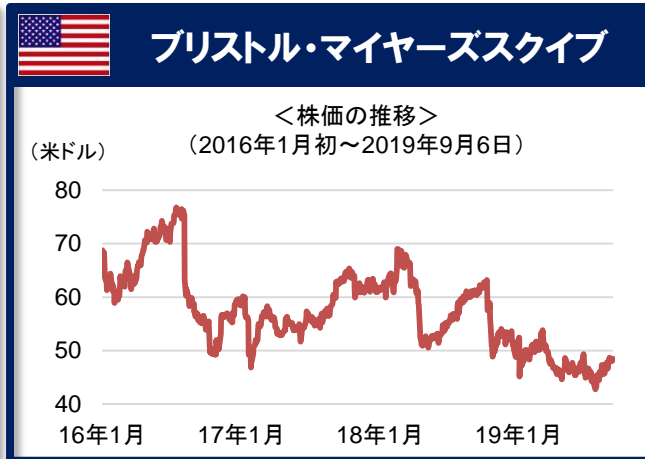
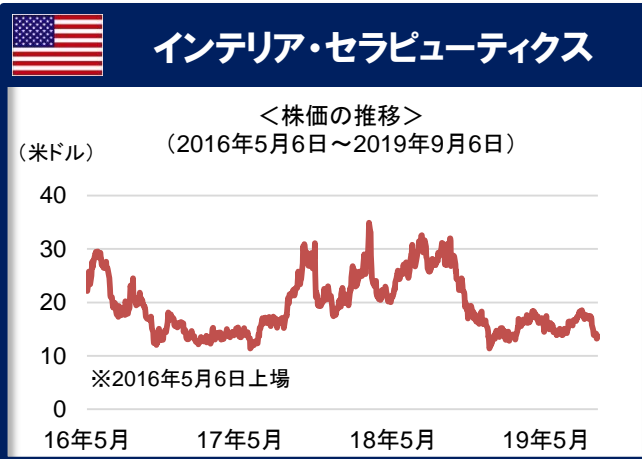


信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ご参考:組入上位銘柄の株価推移②



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主に、世界の株式の中から、ゲノム関連ビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式*に投資を行ないます。
* 預託証券を含みます。
- 2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。
- 3 年1回、決算を行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みの際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年12月7日まで(2019年1月16日設定)
決算日	毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日)
購入・換金 申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日または ニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し3.24%*(<u>税抜3%</u>)以内 * 消費税率が10%になった場合は、 <u>3.3%</u> となります。 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.7712%*(<u>税抜1.64%</u>) * 消費税率が10%になった場合は、 <u>1.804%</u> となります。
その他の 費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を 含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を 乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託 財産から支払われます。 ※ 運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはでき ません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬は かかりません。

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて
異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

(資料作成日現在、50音順)